

第4編

阿賀野市における公共交通の特性・課題の整理

4.1 地域の特性

公共交通のあり方を検討するにあたり、地域特性として以下の点に配慮する。

(1) 集落が分散している。

- ・市内の集落は、市役所周辺と安田支所周辺を除き、全市域に点在し、人口が分散しているため、均一のサービスの提供が実施しにくい状況である。

(2) 水原地区に主要施設が集中している。

- ・水原地区は、「阿賀野市役所」、「水原郷病院」、「水原駅」など地域の主要な施設が集中している地域であり、水原地区へのアクセスが日常生活を支えている。

(3) 観光施設が郊外に多く位置している。

- ・瓢湖が水原市街地に位置しているが、村杉温泉や五頭山麓、サントピアワールドなどの観光施設が郊外に位置しており、自動車以外で向かう場合の交通手段が必要である。

4.2 公共交通の課題

公共交通の主な課題を、4つの視点から以下のように整理した。

(1) 「地域住民の自立した日常生活及び社会生活を確保する」視点

市営バスの運行頻度が低い。

- ・アンケート調査によると、運行頻度が低いことがバスに対する満足度の低下につながっており、同時に改善要望として挙がっている。

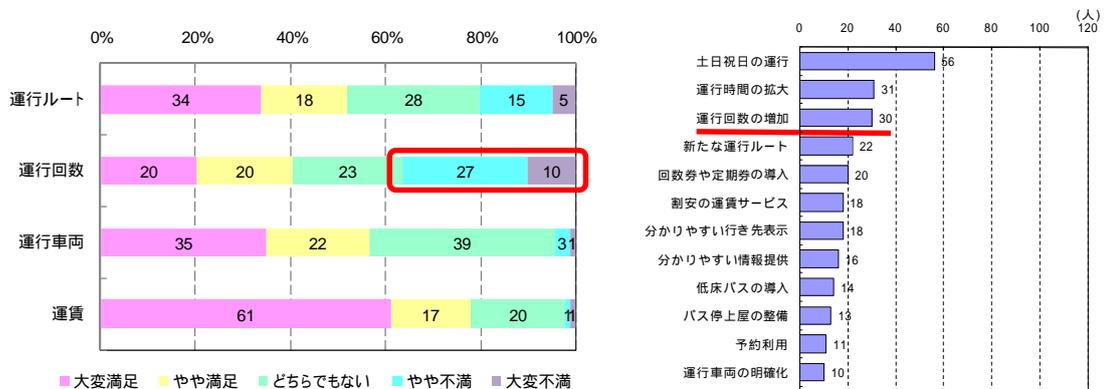


図 市営バスの満足度(利用者)

図 バスの改善要望(利用者)

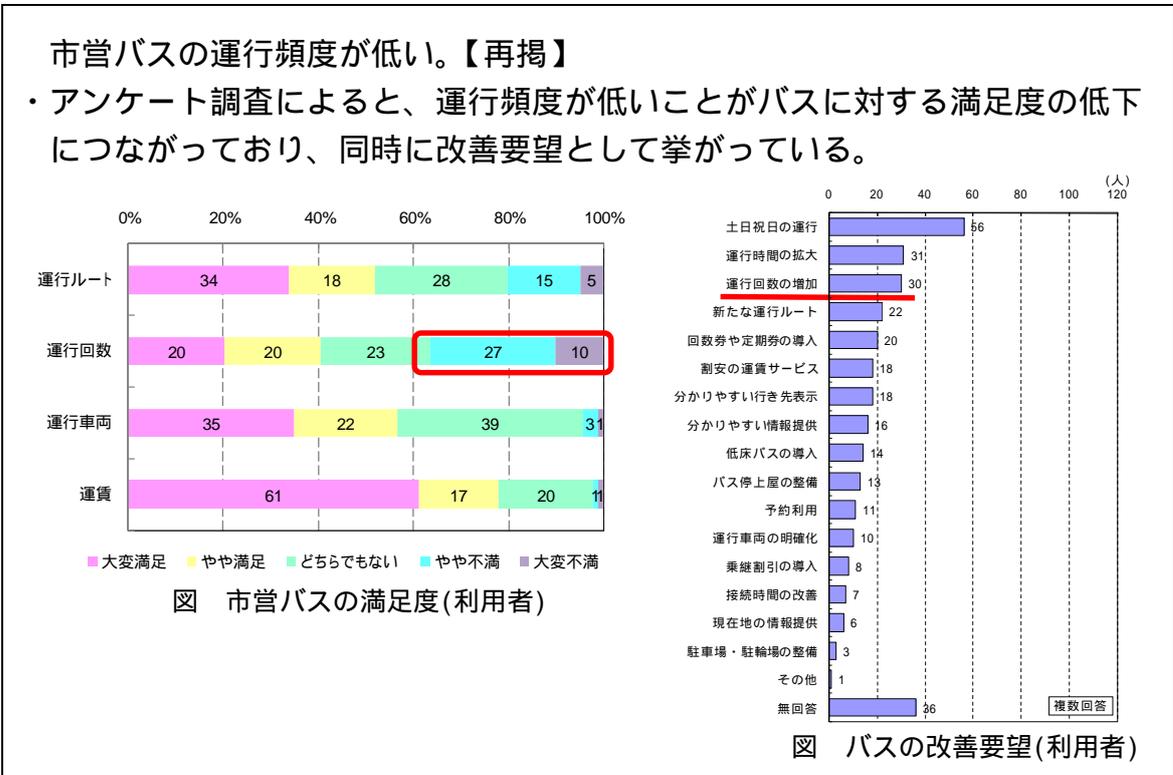
バス交通以外の交通手段がない地域(人)が多い。

- ・鉄道が1路線で、一部の地域しか走っておらず、また、山間部を除き、集落が点在しているため、自動車が利用できない住民にとっては、市内を移動できる交通手段はバスのみという地域が多い。

利用者は、高齢者、学生等が多い。

- ・公共交通利用者は、50代以上が56%、10代18%、合計74%であり、免許保持者で自動車の運転が容易な20代から40代の利用者が少ない。

(2) 「人口増加や就業施設の立地促進等の地域の活性化を図る」視点



(3) 「観光等の地域間交流の促進を図る」視点

鉄道の運行本数が少ない。

- ・通勤や通学の流出入人口の動向でも示されている新発田方面への公共交通は、定時性が確保される鉄道が主であるが運行本数が少ない。朝は高校生を中心に利用が集中するため混雑し、夕方は新発田方面からの運行本数が少なく、帰宅に利用しにくい状況である。

(4) 「地球温暖化対策としての公共交通の利用促進を図る」視点

分かりやすい情報提供となっていない。

- ・アンケート調査により、公共交通(市営バス、路線バス、鉄道)の情報が分かりにくいことが明らかになった。バスの運行経路や、各公共交通間の乗り継ぎなど、情報の内容や提供方法などに課題がある。

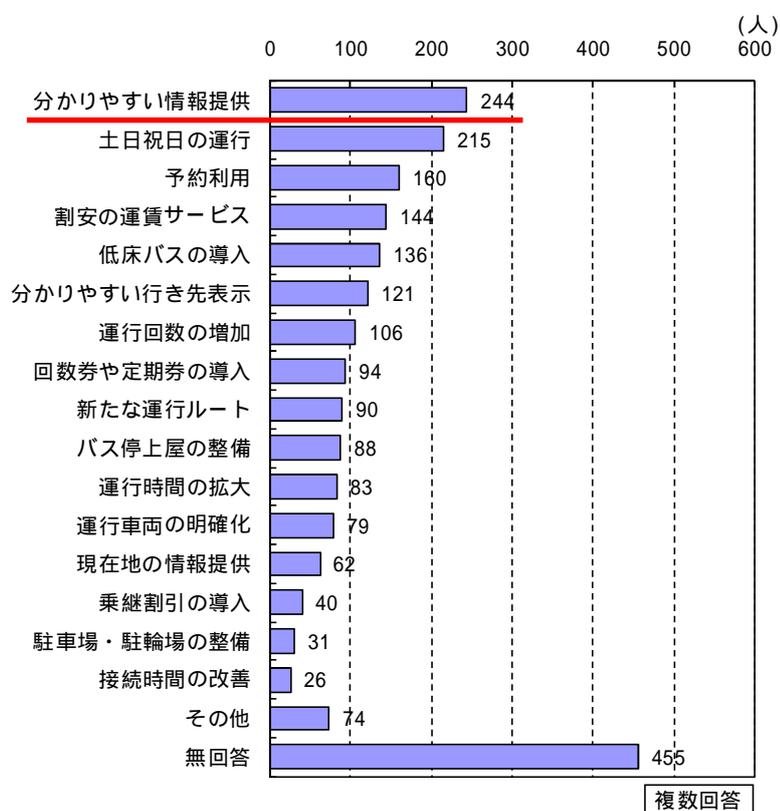


図 バスの改善要望(住民)